

幼児教育長期派遣通信 3学期号

発行 令和8年3月6日

三次市立八次小学校 金子 真代（派遣園・所：三次市東光保育所）

いよいよ研修も終盤となりました。研修を通して、どのようなスタートカリキュラムにすればよりスムーズな接続になるか、遊びを通して培ってきた学びをどのように小学校で生かしていくか考え、スタートカリキュラムを改善しました。その中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について研修を通して学んだことを紹介します。

1 3学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・保育補助、園外保育引率補助（主に年長児クラス）

(2) 園外研修

- ・幼児教育理解に係る研修 ・接続にかかる研修会 ・幼児教育長期派遣研修報告会
- ・幼保小連絡会、連携推進協議会



2 研修を通して

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」というものがあります。2018年（平成30年）4月に「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改定されたことに伴い、**共通の指針**として小学校入学前までに育むべき資質・能力を具体的な形で表したものです。

①健康な心と体

②自立心

③協同性

④道徳性・規範意識の芽生え

⑤社会生活との関わり

⑥思考力の芽生え

⑦自然との関わり・生命尊重

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑨言葉による伝え合い

⑩豊かな感性と表現



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」幼稚園教育要領から簡潔にまとめてあります。

資料3「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿（参考例）」具体例が挙げられています。



【留意点】

- ・特に5歳児後半に見られるようになる姿である。
- ・到達すべき目標ではない。
- ・個別に取り出されて指導されるものではない。
- ・幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではない。

（文部科学省 HP 幼稚園教育パンフレット（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）より）



理解はできるんだけど、実際どんな姿でどうやって育ってきているんだろう。

という研修前の私自身の思いから、スタートカリキュラムに写真等を取り入れることにしました。今回はその具体例を紹介します。

【具体例①】⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

5年生との交流後、保育者から手紙遊びの絵本の読み聞かせが行われる。

「手紙書いてみたい。」「5年生に書きたい。」じゃあお礼のお手紙書いてみよう。

小学校に行って5年生に自分たちで手紙を渡した。

「あ」ってどうやって書く

ありがとうだけでいいかな。

これこれ。〇〇ちゃんの「あ」よ。

私はまた来てねって書こうかな。

ありがとうの気持ちを伝えるために自然と「手紙を書きたい。」という思いになり、文字を覚えていない幼児も覚えている幼児に聞いたり保育者に聞いたりして進んで取り組んでいました。また、気持ちを伝えるために自分で言葉を考え、チャレンジする様子も見られました。保育者は、子供の思いを大切にしながら、自然に文字や言葉に触れられる機会をつくっているのだなと感じました。

【具体例②】複合的に育まれている場面

- ①健康な心と体 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑥思考力の芽生え
⑨言葉による伝え合い

ねえ、私回したい。

いいよ。次私ね。

波みたいにしよ。

蛇も面白いよ。

もっと強くして。

こわいけえ弱くして。

これならできる？

縄に当たったら動けんようになることにしよ。

いいね。それで他の人にタッチしてもらったら復活ね。

あー当たった！誰か助けて！

やった！今度は当たらずにいった！

僕も入れて。

次は当たらんように高く跳ぼう。

いいよ。当たったら動けんようになるんよ。

遠くから行ったら跳べるかも。

言葉だけでなく、行動からも育まれている様子がわかります。縄を回す幼児は、どのように回せばうまく回るのか、跳ぶ人が楽しく遊べるか思考しながら回したり、跳ぶ幼児はどのように跳んだら縄に当たらないか思考したりしていました。全体を見ることも必要ですが、一人の遊びの様子に着目し、その流れを丁寧に観察すると、その子の中でどんな学びが育まれているのかよくわかるのだなと感じました。

3 まとめ

小学校では当たり前と思っていることも、幼児期には一人一人の学びとして育まれています。その積み重ねの上に小学校生活があることを、改めて実感しました。幼児期に大切に育まれてきた力を、小学校でも大切にしながら、知識・技能だけでなく資質・能力の観点からもしっかり子供たちを見取っていきたいと考えています。

〈乳幼児教育支援センターより〉

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして接続を図ることが言われているものの、その具体の姿が小学校側には見えにくいということに課題を感じ、スタートカリキュラムに幼児期の子供の姿に見える化することで、活用しやすいスタートカリキュラムの開発を行うことができました。今後、このカリキュラムを生かして県内多くの先生方に接続の具体を広めていただけることを期待しています。